

校内研究を推進するためのQ&A

平成25年度名寄市教育改善プロジェクト委員会
校内研修(研究)の充実に関する研究グループ

名寄市教育改善プロジェクト委員会『校内研修(研究)の充実に関する研究グループ』では、教職員の資質向上、ひいては学校力の向上に向け、昨年度から平成26年度まで校内研修、特に授業改善につながる「校内研究の在り方」や「学校間の連携」を柱に活動を進めています。

今年度は、各学校の校内研究をさらに充実させるため、研究を進める上でどのようなことに留意すればよいのか、それぞれの過程において大切にしたいポイントについてQ&A形式でまとめました。

これら校内研究の進め方を理解し実践に生かすことは、名寄市の教員が現任校において授業力を高めるために大変有効です。また、みなさんが現任校あるいは異動後の学校において、校内研究に関わり、学校のチーム力を高めようとする際の基盤となります。

各学校の校内研究推進にあたり、このQ&Aを必要な箇所から活用していただき、校内研究の活性化や教員個々の授業力向上につなげていただければ幸いです。

学校力

教員の力量向上

- ◇ 授業力向上
- ◇ 実践的指導力の向上

校内研究

学校のチーム力向上

- ◇ 校内研究による授業改善
- ◇ 校内のスムーズな学年連携

◇ 校内研究に関するQ & A ◇

- Q1 研究推進計画はどのように作成するとよいでしょうか？
- Q2 研究の年間計画はどのように作成するとよいでしょうか？
- Q3 研究主題はどのように設定するとよいでしょうか？
- Q4 研究仮説はどのように設定するとよいでしょうか？
- Q5 研究の全体構造はどのように構想するとよいでしょうか？
- Q6 研究仮説の検証はどのように行うとよいでしょうか？
- Q7 授業研究はどのように進めるとよいでしょうか？
- Q8 校内研究の評価はどのように行うとよいでしょうか？
- Q9 研究のまとめをどのように生かしたらよいでしょうか？

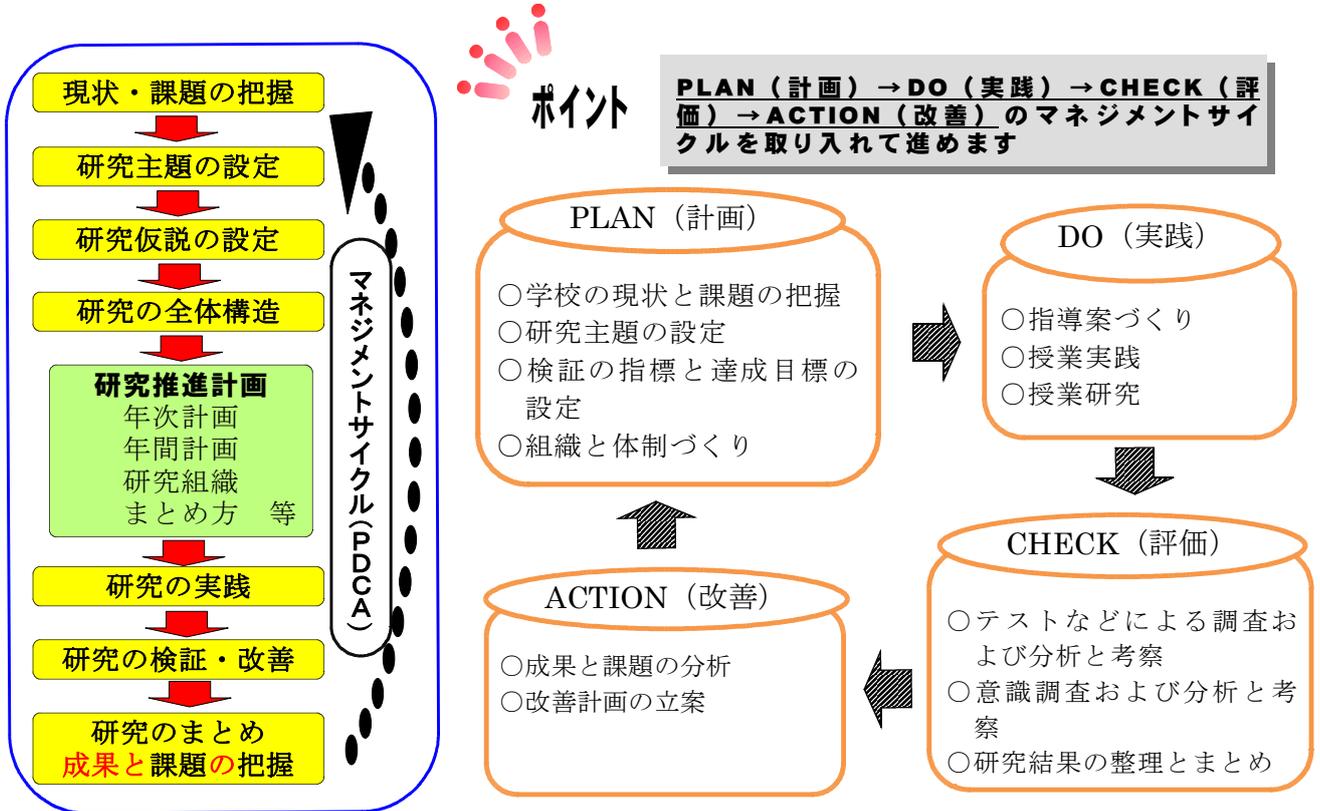


参考資料 平成18年度「ステップアップ/プロジェクト上川」指導資料
校内研究の充実のため～子どもの変容を実感できる研究活動を目指して～
北海道教育庁上川教育局

Q1 研究推進計画はどのように作成するとよいでしょうか？

＜推進計画作成の留意点とは？＞

- ・ 学校の教育目標との関連をはじめ、学校経営の全体構想との一貫性を図ります。
- ・ 長期(年次)計画と短期(年間)計画との相関を明らかにし、具体的な見通しをもって作成します。
- ・ 計画全体がだれにも理解できるように簡潔に整理し、イメージ化します。
- ・ 必要に応じて計画の見直しができるような柔軟性をもたせます。 など



○推進計画の実践例

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 |
|------|--|---|---|
| 1 学期 | PLAN ○現状と課題の把握 ○研究主題の設定 ・現状把握と分析 ・適切な主題を設定 ・主題に基づく仮説の設定 ・仮説に応じた研究内容の設定 ○検証の指標と達成目標の設定 ○組織・体制づくり | ACTION PLAN ○改善計画の立案 ・1年次の課題と成果をもとに、研究仮説の修正 ・修正した仮説に基づき、研究内容を修正 | ACTION PLAN ○改善計画の立案 ・2年次の課題と成果をもとに、研究仮説の修正 ・修正した仮説に基づき、研究内容を修正 |
| 2 学期 | DO ○授業実践 ○授業研究 ※P → D → C → A を常に行います | DO ○授業実践 ○授業研究 ※P → D → C → A を常に行います | DO ○授業実践 ○授業研究 ※P → D → C → A を常に行います ○公開研究会の実施 |
| 3 学期 | CHECK ○テストなどによる調査および分析と考察 ○意識調査および分析と考察 ○1年次研究結果の整理とまとめ ACTION ○成果と課題の分析 | CHECK ○テストなどによる調査および分析と考察 ○意識調査および分析と考察 ○2年次研究結果の整理とまとめ ACTION ○成果と課題の分析 | CHECK ○テストなどによる調査および分析と考察 ○意識調査および分析・考察 ○3年間の研究結果の整理とまとめ ACTION ○次の研究の方向性を確認 |

Q2 研究の年間計画はどのように作成するとよいでしょうか？

<年間計画作成で留意することは？>

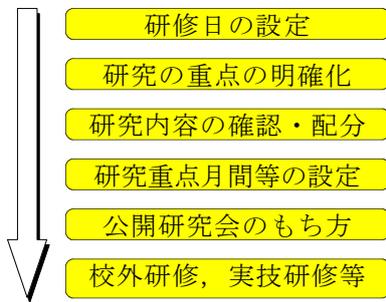
研究の年間計画の作成に当たっては、各教科等の年間指導計画との関連を踏まえるとともに、学校全体や個人として「いつ」「何を」「どのように」「どこまで」行うのか明確にします。

年間計画の作成時に考慮する点

| | | | | |
|-------------|-------------------|----------------------|----------|------------------|
| 研究内容の検討と系統性 | 積み上げや内容の深化を測れる順序性 | 研究内容を実践・検証するために必要な年数 | まとめ方の明確化 | 年次ごとの計画・内容・量の適切さ |
|-------------|-------------------|----------------------|----------|------------------|

研究の年間計画

見通しをもった研究推進



年次計画の推進・修正

ポイント1

年度末に次年度の研究の大まかな見通しを立てます

検証のための実践の期間を十分に確保するためには、年度の早い時期に計画を決定することが大切です。そのために、前年度末に次年度の研究の方向性を構想しておく必要があります。

ポイント2

研究の重点を明確にし、具体的な目標を立てます

1年間の研究で何を達成しようとするのかをできるだけ具体的にし、全教職員で確認することが大切です。

ポイント3

年度を大まかな期間で区切り、計画を立てます

学期や前期・後期など、ある程度の期間で区切り、その期間で「体制を確立する」「授業実践を通して仮説の検証をする」「研究をまとめ、次年度の方向性を検討する」など、ねらいを明確にさせて、取り組むことが大切です。

ポイント4

研究重点月間や月・週の中の研究日を設けます

各教科等の年間指導計画との関連を踏まえ、主な研究内容を授業に位置付けて実践する重点月間を設定するなど、全校が共通理解のもと統一して取り組むことが大切です。

ポイント5

個人、部会、全体で「いつ」「何を」「どのように」「どこまで」するのかを明確にします

研究日の取組内容を年間計画に位置付け、日常の教育実践の中で「何に取り組んでいけばよいのか」を明確にするなど、**日常の教育実践と校内研究が直結**しているという意識を高めることが大切です。

ポイント6

1学期あるいは2～3ヶ月ごとに推進の計画や日程などを示します

研究の具体的な手順や方法、日程などを「研究だより」や「当面の研究の進め方」などの形で示し、日常的に共通理解を図り、研究を全教職員に意識付けていくことが大切です。

ポイント7

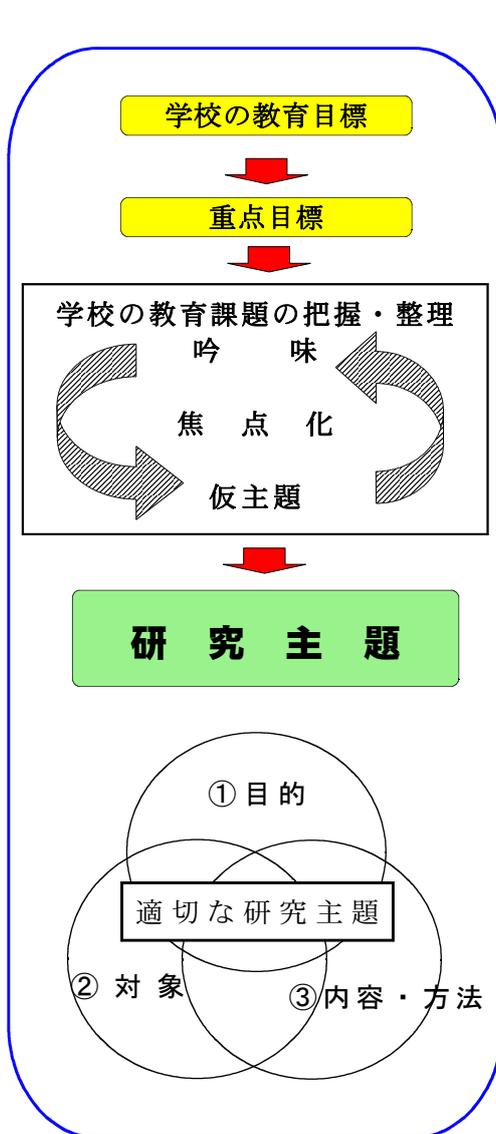
まとめを見通した計画を立てます

公開研究会の開催や研究紀要の作成に向けての日程など、研究のまとめを見通し、年間計画を立てることが大切です。

Q3 研究主題はどのように設定するとよいでしょうか？

< 研究主題とは？ >

研究主題は、研究推進上の課題を焦点化し、校内研究の目的（研究の目指す姿）、対象（研究の領域・分野等）、内容・方法（研究の手立て）を端的に表現したものです。そのため、学校の教育目標や年度の重点目標、子どもの実態や保護者・地域・教師の願いとの関連を踏まえることが必要です。



ポイント1 学校の教育課題を焦点化します

- 1 学校の現状と課題を把握します。
 - ① 子ども・学校・地域の実態を学校評価などから把握します。
 - ② 学校の教育目標・年度の重点目標の達成状況を把握します。
 - ③ 日常の教育実践を通じた課題などを把握します。
- 2 学校の教育課題を整理・焦点化します。
 - ① 把握した課題を分類・整理します。
※ワークショップ型などで構造的にとらえる方法もあります。
 - ② 課題の重要性や緊急性，時代の教育課題との関連に留意して課題を焦点化します。



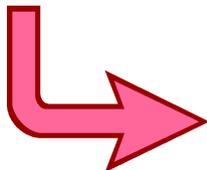
ポイント2 研究課題を焦点化します

- 1 仮の研究主題を設定します。
 - ① 焦点化した学校の教育課題を解決する研究を検討します。
※目指す子ども像，教科・領域・分野などについて検討します。
 - ② 仮の研究主題を文章化します。
- 2 仮の研究主題を設定し，どのような実践になるかを予想し，吟味します。
 - ① 目指す子ども像は具体的にどんな姿となるのか吟味します。
 - ② 具体的にどのような指導・工夫・手立てを行うのか吟味します。

*見通しを立て，問題点を明らかにします。



ポイント3 研究主題を設定します

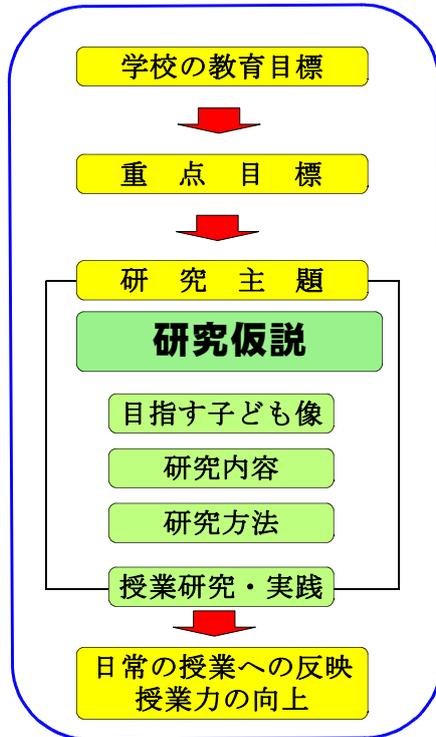


- 1 3つの要素を位置付けし文章化します。
 - (1) 3つの要素（目的，対象，内容・方法）を位置付けます。
 - ① 目的⇒研究の目指す姿「～をめざす」「～を育てる」など
 - ② 対象⇒研究の領域・分野等「～における」「～の研究」など
 - ③ 内容・方法⇒研究の手立て「～を通して」「～による」など
 - (2) 3つの要素が明確になる端的な表現を吟味します。（補足・修正）
- 2 全教職員のやる気が高まる表現の主題・副題を確定します。

Q4 研究仮説はどのように設定するとよいでしょうか？

< 研究仮説とは？ >

研究仮説は、校内研究の見通しや予測にあたるもので、「研究結果についてある程度の客観性をもった仮の判断」です。研究の手立てや目指す子ども像について全教職員の共通理解を図るためにも、具体的な研究仮説を設定することが大切です。



ポイント1 研究仮説のモデルを参考にします

研究主題の追究が何によって行われ、その結果子ども像がどのような姿になるのかを願っているのかを分かって表します。

- A 場面・範囲「～において」
- B 具体的な手立て、重点「～することによって」
- C 目指す子ども像「～することができる」

ポイント2 仮説設定の視点を明らかにします

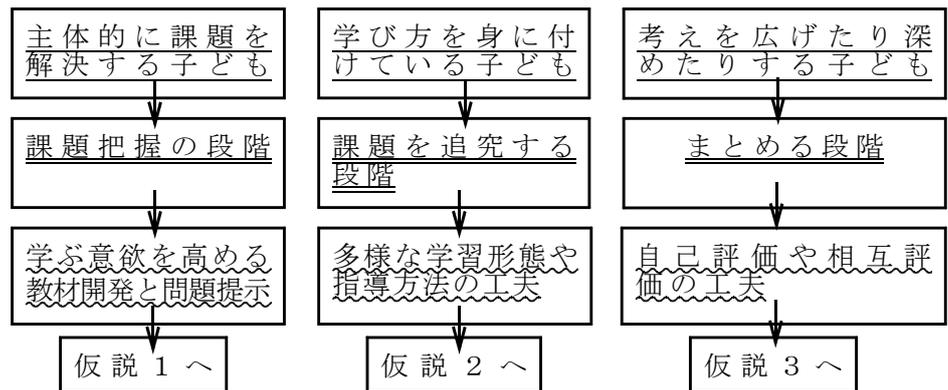
- ① 目指す子ども像，変容の結果を示します。
- ② 場面や対象など研究の具体的な場や分野などを限定します。
- ③ 具体的な検証方法・内容・手立て，評価との関連等を明らかにします。

ポイント3 仮説設定の手順を踏みます

< 手順 >

- ① 目指す子ども像
- ② 研究範囲の決定
- ③ 研究の手立ての明確化

<例> 【研究主題】学ぶ喜びがわかり、進んで学習する子どもの育成



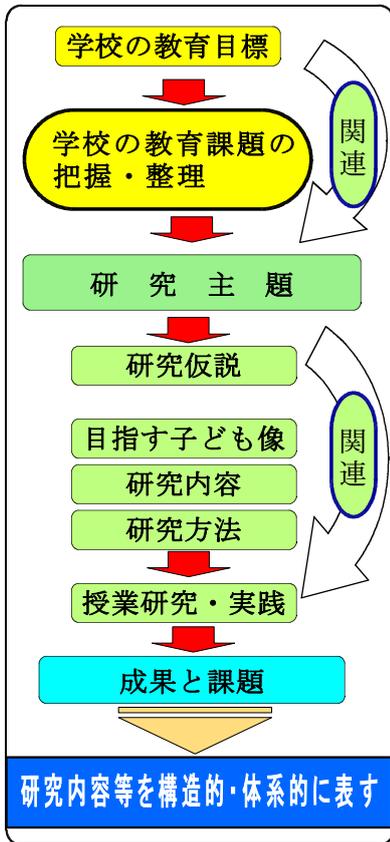
目指す子ども像，研究範囲，手立てをモデルに当てはめ仮説として表します。

- 【研究仮説 1】
課題把握の段階において、学ぶ意欲を高める教材開発や問題提示を行うことによって、主体的に課題を解決する力を高めることができるであろう。
- 【研究仮説 2】
課題を追究する段階において、多様な学習形態や指導方法の工夫を行うことによって、学び方を身に付けさせることができるであろう。
- 【研究仮説 3】
まとめる段階において、自己評価や相互評価の工夫を行うことによって、考えを広げたり深めたりする態度を養うことができるであろう。

Q5 研究の全体構造はどのように構想するとよいでしょうか？

<全体構造とは？>

学校の教育目標と研究主題との関連など、研究推進の内容や背景、道筋を構造的に表し、すべての教師が共通理解のもとで研究を推進するために、研究の内容や方向性を体系的に表すものです。



【全体構造図作成の留意点】



ポイント1

課題の解決につながる研究主題を位置付けます

学校の教育目標や年度の重点目標から導き出された課題の解決につながる研究主題を位置付けます。

<例> 【学校の教育目標】

～自律心を持ち、自ら学び、誠実に行動する生徒の育成～

【研究主題】

自ら課題を持ち、粘り強く取り組み、共に学び合う生徒の育成
～各教科の指導における学習過程の工夫を通して～



ポイント2

より具体的な子どもの姿を位置付けます

研究主題で示された研究の目的をもとに、より具体的な子どもの姿（目指す子ども像）を位置付けます。

<例>

○事象との出会いから課題を見だし、意欲的に取り組む生徒

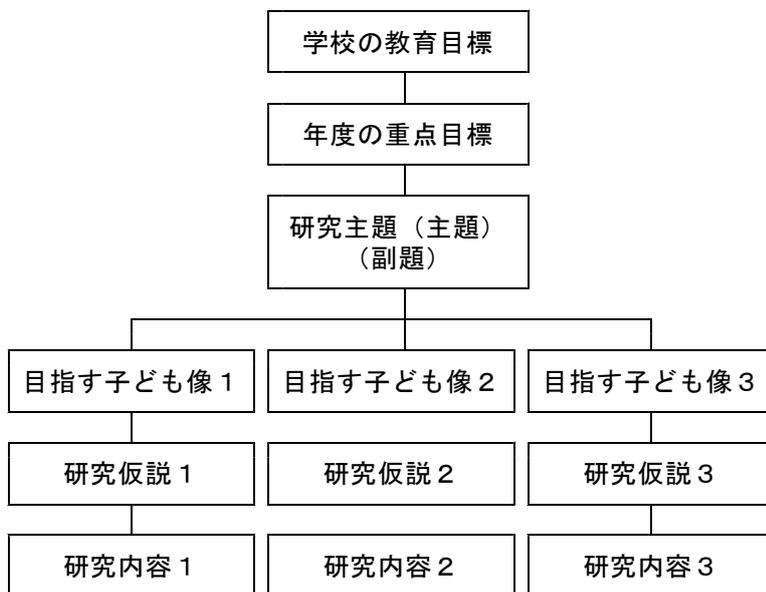
○学んだ成果を共有しながら、課題解決に粘り強く取り組む生徒



ポイント3

手立てを考え、研究仮説を位置付けます

<研究の全体構造図のモデル>



目指す子ども像に迫るための手立てを考え、研究仮説を位置付けます。

<例>

仮説1 導入において、学びへの必要感を高める事象との出会いの場を工夫することにより、意欲的に学習に取り組ませることができるだろう。

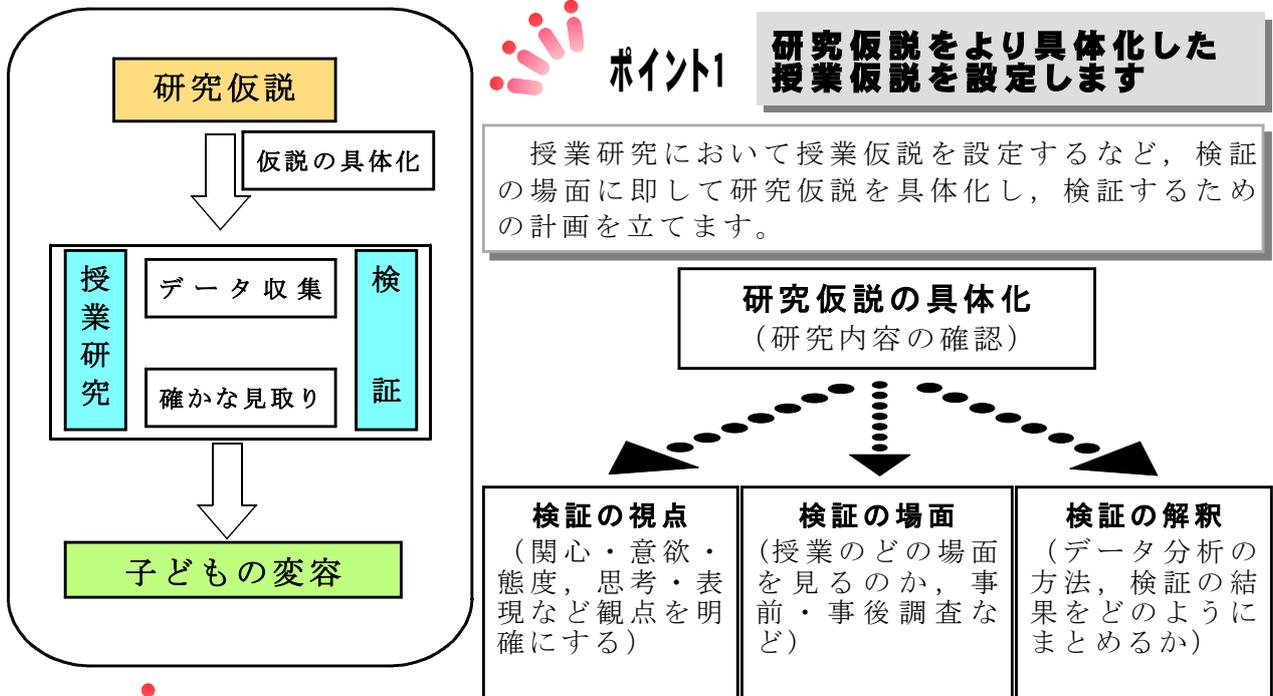
仮説2 課題追究において、交流活動を工夫することにより、学んだ成果を共有しながら課題解決に粘り強く取り組ませることができるだろう。

仮説3 終末において、振り返りの場面を設定することにより、分かる喜びを実感し、新たな課題意識を持たせることができるだろう。

Q6 研究仮説の検証はどのように行うとよいでしょうか？

< 仮説の検証とは？ >

研究仮説で期待した目指す子ども像と、事前・事後調査や授業を通して明らかになった子どもの変容の姿とを比較・検討し、講じた手立てが適切だったかなど、確かな見取りとともに仮説の有効性を検証していくことが大切です。



ポイント2 事前・事後調査等を活用し、検証・分析を行います

研究仮説と関連する子どもの実態や意識などを把握するために、事前・事後調査を行います。

【事前・事後調査の方法】

| | |
|---------------------------------------|--|
| 質問紙法 観察法 面接法 学力検査 道徳性診断検査 | <ul style="list-style-type: none"> ・知りたい項目について、記述式や選択式で情報を集めるために行います。 ・行動を観察、記録、分析して実態をとらえるために行います。 ・個人または集団と対面して、情報を収集するために行います。 ・学習面の習得状況等をとらえるために行います。 ・道徳的行為の背景にある内面を把握するために行います。 |
|---------------------------------------|--|

ポイント3 授業を通してデータの収集を行います

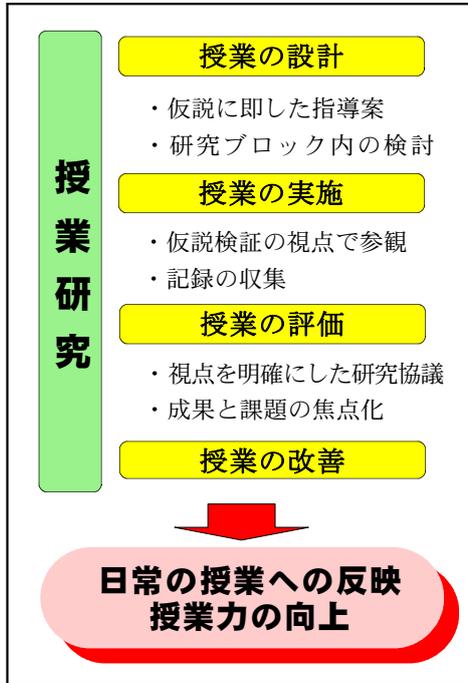
【データ収集の留意点】

- ・授業のどの場面で、どのような方法を用いて検証するのかを明確にします。
- ・集団と個の変容を同時に捉えるようにします。
- ・子どもの様子を学級の雰囲気などに照らしてとらえるようにします。
- ・日常の授業実践においても、研究仮説の手立てを取り入れるようにします。

Q7 授業研究はどのように進めるとよいのでしょうか？

＜改善につながる授業研究の進め方とは？＞

授業研究を進めるに当たっては、その手順を明確にして実施し、授業仮説等を位置付けた指導計画や本時の展開、研究仮説の検証につながる研究協議を工夫する必要があります。また研究協議で出された課題や成果をその後の授業改善につなげることが最も重要です。



ポイント1

授業研究は次の手順で進めます

〈手順〉

- ① 授業の設計**
 - ・研究仮説に即して指導案を作成します。
 - ・作成した指導案に基づくプレ授業などを行い指導案の改善を行います。
- ② 授業の実施**
 - ・研究仮説の検証に向け、具体的な観点の内容、場、方法、分担等を決めます。
 - ・客観的、多面的な記録が収集できるよう工夫します。
- ③ 授業の評価**
 - ・研究仮説に基づき、評価の視点を明確にして研究協議を行います。
 - ・子どもの反応なども観察し、手立ての有効性を検討します。
- ④ 授業の改善**
 - ・研究協議で得られた改善点、課題、成果等を別の単元や授業に活用します。



ポイント2

授業仮説を設定します

各教科の目標を踏まえて、授業設計と指導方法をこまめに検討し、達成度を高めるようにします。

校内研究における授業研究は、設定した研究仮説を検証するために実施します。研究仮説を授業場面に応じて具体化した授業仮説を設定することで、具体的に子どもの姿を捉えることができます。その際、以下の点に配慮することが大切です。

- 場、範囲 → 1単位時間、単元
- 手立て、重点 → 指導方法、教具、資料、ICT機器など
- 目指す姿 → 子どもの反応や変容の具体的な予測



ポイント3

研究協議のポイント

研究協議は、研究仮説との関わりを明確にした協議の柱を設定し、研究仮説の検証につながるよう、次の点に留意して進めることが大切です。

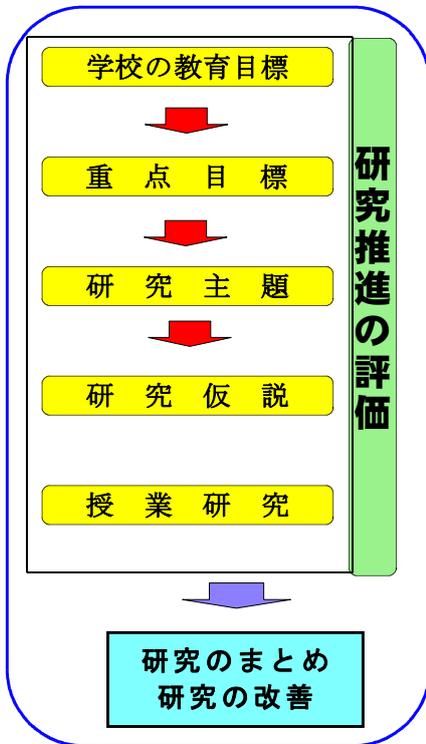
- 研究の年間計画を踏まえ、協議のねらいを明確にします。
- 研究仮説との関連を明確にした協議の柱を設定します。
- 授業者、観察者、子どもの評価など、多面的に収集した授業記録に基づき子どもの状況や教師の関わりを分析します。
- 協議の柱に基づき、研究仮説の有効性を確かめたり、授業改善の視点を明らかにしたりして、指導と評価の一体化を図ります。

常にマネジメントサイクルを意識し、授業の研究協議で出された課題や成果をその後の授業改善につなげることが大切です。

Q8 校内研究の評価はどのように行うとよいでしょうか？

< 評価の目的、留意点とは？ >

校内研究の評価は、子どもの望ましい変容を促すために、研究の推進計画や方法が適切であったかどうかを検討・分析し、研究の成果と課題を明らかにするためにを行います。評価の項目や観点を明確にし、研究計画の段階から研究の改善まで、見直しをもって行うことが大切です。



ポイント 1 評価の項目や観点を明確にします

どの段階で、どんな評価を行うかを明らかにします。「計画」「実践」「評価」「改善」等の段階に分けて評価を行います。

- ①計画 (P) 研究主題の設定・研究仮説の設定など
- ②実践 (D) 研究推進や授業研究のあり方など
- ③評価 (C) 研究結果の整理・研究のまとめなど
- ④改善 (A) 研究の改善策など

マネジメントサイクルの各段階に応じて、視点を定めて評価を行います。

ポイント 2 年度末だけではなく、年度途中でも振り返るようにします

年度末だけではなく、研究推進の実践段階の途中において振り返ることで、より細かく研究を見直し、改善を図ることができます。その成果と課題を日常の授業改善に結びつけることで、より実践的な研究への取組が期待できます。

ポイント 3 研究の評価は以下のようなことに気を付けて行います

< 手順 >

① 評価の項目・観点・方法を明確にします。

ポイント 1 を参照

- ・ 研究授業は、仮説の検証内容や方法が位置付けられた指導案に基づいて実施されているか。
- ・ 研究の目的や内容、方法が明確になっているか。

② 多面的に評価を行い、情報を収集します。

- ・ 授業記録、児童の自己評価カードや授業評価シート等から情報を収集します。

③ 評価の情報を整理します。

- ・ どの子がどのように変容したのか、どのような手立てが有効であったかなどを整理します。

④ 研究の成果と課題を明らかにします。

- ・ 子どもの変容により有効な手立ては何か、改善を要する手立ては何か、他に有効だと考えられる手立ては何かなどを明らかにします。

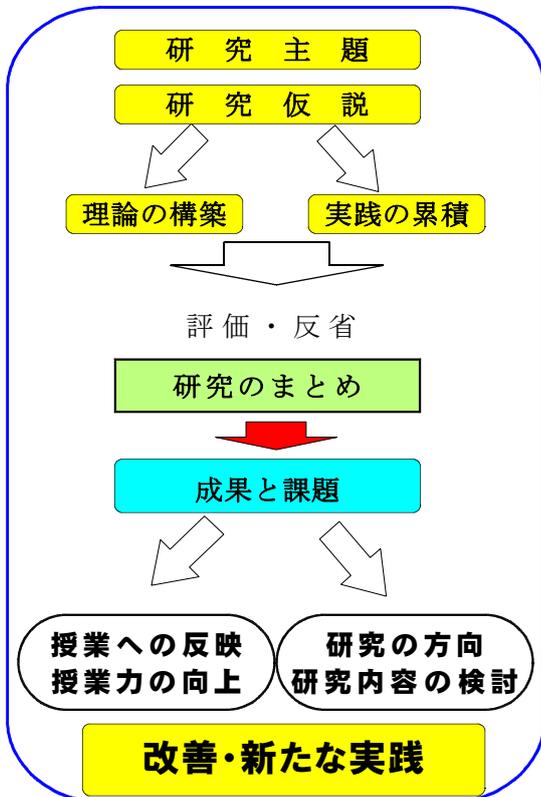
⑤ 研究の方向性を改善します。

- ・ 子ども像の見直し、研究仮説の修正、手立ての検討など、研究の方向性を明らかにします。

Q9 研究のまとめをどのように生かしたらよいでしょうか？

< 研究のまとめとその留意点とは？ >

研究のまとめは、研究の成果や課題を明らかにし、成果を日常実践に生かすとともに、課題については、今後の研究の方向性を示し、追究していかなければならないものです。そのためには、子どもの変容やその手立てなどを資料化することが必要です。



ポイント1 研究の成果と課題を整理します

具体的な研究内容、方法など、成果と課題を整理します。

- ① 研究主題、仮説の設定は適切であったか。
- ② 年次計画に沿って研究内容が進行しているか。
- ③ 年度の重点は、どの程度達成できたか。
- ④ 研究内容や研究方法は、仮説を検証する上で有効であったか。
- ⑤ 成果が子どもたちの変容となって表れたか。
- ⑥ 研究推進上でどんな課題が生まれたか。

ポイント2 成果を明らかにし授業に生かします

校内の研究を累積保存し、研究の成果を質的に見直し、次年度の計画改善に役立てます。

成果をまとめるときは、児童生徒の変容を根拠に、教師の手立ての効果を数値で表すなど成果をできるだけ具体的にします。

※ 児童生徒のノートや自己評価・感想を入れるとより具体的になります。

ポイント3 研究をまとめ、資料として記録を残します

年間の取組、年次計画に基づいた取組の過程、成果や課題をまとめ、記録に残すことによって、研究を振り返り、成果と課題を全教職員で共有し日常の授業改善に直結させたり、新しい研究や個々の資質向上を目指したりする資料となります。

その際、何のためにまとめを残すか、どのような形で残すかを明らかにすることが大切です。

<例> ①実践集録

自分たちの研究をまとめ、次に生かすため、あるいは個々の授業改善に役立てるため、校内研究の流れに沿って、指導案や授業記録、研究協議の内容などをまとめていきます。〈製本、ファイル、データなど〉

②研究紀要

研究を広く公開する際の発表に用いたり、他校に配付して研究や実践について情報提供したり、外部から意見をもらうために作成します。〈製本、データなど〉

ポイント4 課題を明らかにし次年度の研究につなげます

成果を日常の実践に生かし、今後につなげていくことが最も重要です。次年度に向け、課題解決の方向性や具体的な改善策を全教職員で協議し、共通理解を図り、評価と反省を生かした授業実践に取り組んでいくことが大切です。

また、自校の成果にとどめず、学校間で情報交流することで、それぞれの学校の研究の成果が名寄市全体のものとなり、名寄市の教職員の授業力向上、子どもたちの成長へとつながっていきます。